

第21回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録概要

会議の名称：第21回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

開催の日時：平成24年8月27日（月） 午後1時30分～3時30分

開催の場所：鳥取県庁 特別会議室

出席者氏名：別紙出席者名簿のとおり

会議の概要：以下のとおり

1. 平成23年度評価の決定について

① 審議結果

資料1に基づき事務局より説明し、議長が委員に諮り、異議なく出席委員一致で、原案のとおり決定。

② 主な意見

委員	委員発言	意見に対する回答、対応
副井委員長	<p>○平成22年度までの4年間の評価は全部5段階評価で3だったということと、それを2倍して1加えて7という評価。今期は5段階評価で4にして、その2倍の8を10段階評価の評価とするということで、委員さんにはいろいろ御意見もいただいたが、一応法人化のメリットを生かした運営が進行してきたということで、あくまで参考であるが、項目別評価の平均も3.93という判定もいただいたので、こういう案にさせていただいた。</p> <p>○また、それぞれの委員さんからいただいたコメントは、取り入れるところはほとんど入れているつもりである。</p>	
谷口委員	<p>○非常にシリアスに考えている問題は、対前年比よりも目標値を下げた状態で、下げたものをクリアしてよくやりましたということは、本当にセンターの皆さんを非常に侮辱した</p>	<p>○やはり大きな事件、三洋の問題を御指摘なさっていて、そういった状況にある意味放置を数年していた原因が産業技術センターにあるのではないかという思いだと思うが、そ</p>

	<p>物の見方になるのかなと思う。そういうことを今まで何年も続けてきた結果が、一つの事件として発生したのが鳥取三洋さんの崩壊ではないか。これでもいいかというほど甘やかして、いわゆる親方日の丸的なことをやってきた、そういうことが現実に関までものの集計として出てきている。その年においてもまだよくやったと言われたら、次、何がどうなるのかなということを非常に危惧し、もう少し本気で、目の玉の色を変えてやろうという何かが必要なのではないかなと思う。</p> <p>○コメントで書いていただいているのはありがたいが、極めて抽象的であり、この4や8という数値には影響しないということを考えるときに、これだけ大きな事件が発生してきている時に親方日の丸だということでもいいのかなと思う。</p>	<p>これは産業技術センターのみならず、もちろん県行政としても少し力が及んでいない部分があるかなと思う。(事務局)</p> <p>○産業技術センターだけにすべての責任を押しつけるわけにもいかないとは思いますが、もちろんそういったことを全く気にせず研究に没頭しているというわけでもなくて、このたび委員長にも書いていただいたが、やはりそれは意識として今の鳥取県経済の置かれている現状を踏まえて、きちんと企業に対して支援をしましょうと。あるいは一方研究もしてくださいという期待を込めてのこういうコメントになっているだろうと思っている。(事務局)</p> <p>○このコメントは、我々もひしひしと受けとめている状態である。ただ一方で、どうしても産業技術センターが、では平成23年どういう活動をされたかというのを、委員の皆様方に資料、あるいはセンター自らの説明によって御判断をいただいていると認識をしているので、あくまで実績に対する評価、そして今後に対する期待も込めてという部分で総括をさせていただいていると認識しているので、ご理解いただきたい。(事務局)</p>
<p>辻委員</p>	<p>○評価が4だと交付金が減らないという話だったが、交付金がかたも減ってしまうと、産技センターの活動能力みたいなのは低下する方向に影響を受けるか。</p>	<p>○数値的に言えば1%に見合う事業ができないか、あるいは工夫をしてその予算の中でやりくりをしていく形で、産業技術センターの運営努力が求められるということにな</p>

	<p>○ただでさえ期待をもっと強くかけなければいけないのに、お金を減らして困らせるのは悪い気もするがその辺りはどうなのかと思う。</p>	<p>る。(事務局)</p> <p>○県では、業務の効率化として産業技術センターの予算は毎年1%ずつ削減をするという発想。ただそれだとどんどん減って、何年後かにはもう小さくなってしまうため、一方でこの評価という制度を用いて、頑張れば予算の減少を食いとめることができるというインセンティブを与えることによって、センターの努力を求めている形になっている。(事務局)</p>
<p>辻委員</p>	<p>○谷口委員が言われるような全体的なことを考えると、要は県内の産業活動の成果が、毎年何かの指標ではかったりできているのか。</p> <p>○それが結局のところ遠いアウトカムとして産業技術センターが行ってきたことになっていくと思う。</p> <p>○どんどん産業が疲弊しているなという数字の指標がもしも出れば、産業技術センターの方もどこに重点化してやらなければいけないとか、そういうものがはっきりわかると思う。それがないから毎年同じような目標を立てて、同じようにやって、大体3.5から4ぐらいの点がつくだろうといことになりつつあるのかもしれないと思う。</p>	<p>○何かしらの少し長いスパンの数値を持って、これを上げていこうということができればいいと思う。(事務局)</p> <p>○ただ、数値がなくても、例えばどんどん空洞化している鳥取県の製造業を少しでもいい方に持っていくために産業技術センターが果たせる役割、発揮できる能力というものが多分あると思う。(事務局)</p>
<p>辻委員</p>	<p>○産業を発達させていくという視点から見ると、産業技術センターがかかわっている産業の種類がそれぞれ違う。食品とか、機械とか、全然産業界が違うものを一緒に判定しているのがとてもやりづらい。</p> <p>○なぜかという、私は食品業界にい</p>	<p>○検討させていただく。(事務局)</p>

	<p>るので、そういうことに関しては詳しいし、例えば谷口委員は食品ではなくて、もっと工業的な部分に知識が深いわけで、やはり鳥取県のそれぞれの産業ごとに弱点の対応策があると思う。</p> <p>○これを表面的に一緒にして評価しているので、的確なアドバイスもなかなかできない。そういうものの評価がもっときちんと厳密にできたらいいと思う。</p> <p>○人事など共通部分もあるが、企業が困っている部分が何であって、それに対してどう対応しているのかというのがそれぞれの研究所によって違うと思う。</p>	
副井委員長	<p>○私は専門外だが、食品のところなどは、それなりにある程度までの評価はできるのかなと思う。</p>	
房安委員	<p>○産業技術センターの役割というのは、相談業務と技術的・研究的事業に取り組んでいると思っていたのが、そこからまた一步進んで商品をつくって商品開発もし、それを次の段階の販売に持って行っていらっしゃるということになると、すごく大変だなと思う。</p> <p>○商品をつくり上げるということは、今、相当研究員さんのレベルも高くなっているし、それがかなうような時代になっている。ただ、それが売れるか売れないかは、それが大きな問題。そこをセンターが引き受けられるというのは、大変なことだなと思う。企業側としても、そこを後押ししてくれるというのは本当ありが</p>	<p>○そこはもちろん、それぞれが知恵を出し合ってやっていく。私の考え方だと産業技術センターというのはある意味技術部門というのがメインで、もちろん営業をしないわけではなくて営業部分もあるのですけれども、営業の部門とすれば産業振興機構にむしろ営業のウエートというのはあるので、そういう意味でいうとセンターと産業振興機構が連携をして技術部門でいいアイデアを出して、それで機構でまた営業をかけていくと。こんな形でうまく連携させていって、機能させていくのがやっぱりベストなのかなと思う。(事務局)</p>

	たいこと。	
辻委員	<p>○売れる商品づくりについて一つの流れとしては機構とセンターがかなり密接に機能していかないと思うようにはいかない。</p> <p>○センターのテーマ設定について市場調査が必要。世間でやっていることと同じことをやってもしょうがない。特許にもそれはつながっていく。</p>	○技術開発と商品開発に行くまでの市場調査をきちんと入念にやっておくべきと思う。(事務局)
谷口委員	○非常に大きなアクシデントがあったことに対し、再発防止のために自分たちの使命感というものも認識し、再発絶対防止ということの一つの大きな前提事項として、評価数値を出させていただいているということをも、もちろん明文化されてはいるが、特にそれらのことを申し伝えて、このまとめられた数字で進めていただくのがいいのかなと思う。	
辻委員	○センターの実績報告について、やりました、いい成績ですばかり言わないで、ここができなくてどうしたものだろうかという気持ちを持って、日々の問題点を上げていただければいいと思う。	
副井委員長	○今回、前年度等と違うのは自己評価が格段によくなっている。今までとの格差がちょっと理解できない。すべての項目がほとんど5か5に近い形になっていたと思う。	
副井委員長	○今後の問題点の一つだと思う。これは中期目標で、数値目標などは中期計画のところでも出されるわけなので、それを年度に割っているだけの話。だから、今後そういう数値をどういうふうに考えていくか。数値ば	

	<p>かりよりも本当は内容が大事。</p> <p>○中期目標を立てた時点と、確かに数年たつと経済環境とか社会環境も変わってくる。それをどのように取り入れていくかというのは評価に当たって難しいところ。</p>	
--	---	--

③産業技術センターへの評価結果の公表

委員	委員発言	意見に対する回答、対応
副井委員長	<p>○まず、総合評価は、5段階評価で4、10段階換算で8という結果を出している。</p> <p>○総合評価のコメントは、地方独立行政法人化のメリットを生かした運営が一層進行しており、研究成果の企業への技術移転で多くの商品化に顕著に貢献しているなど、企業からの高い技術レベルの要望に対し確実に対応しており成果が上がっている。</p> <p>また、職員の意識改革と目標達成のためのマネジメントについて、前中期目標期間に比べて改善・進捗していると。このような状況を踏まえ、全体評価は、5段階で4とすると。</p> <p>また、10段階評価では、5段階に2を乗じた8とするというので、その前年あるいは前期の3から今回は4に上げさせていただいた。それと、10段階換算評価も1上がって8ということになっている。</p> <p>○ただし、委員の皆さんからは、非常に厳しい経済環境等、県下の企業を取り巻く厳しい状況があるので、より一層産技センターにも活躍していただきたいということで、幾つかの</p>	

	<p>コメントをいただいている。</p> <p>○その中で、「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」に対する評価ということで、「引き続き円高等経済環境は厳しい状況であり、企業は常に倒産の危険性を抱えながら仕事に取り組んでいることを忘れず、企業訪問・技術相談等企業支援に努めること。」例えば、某大企業が今、鳥取県で非常に大きな影響を与えていると、倒産まではいかないだろうが、吸収されたというようなこともあるし、この時期にどうして5段階評価で3が4に上がるのかという意見等あったが、議論の末、今後の産業技術センターの取り組みに期待する意味も込めて4にさせていただいた。</p> <p>○また、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」に対する評価というところでは、「前述の商品開発に関するトータルなサポート体制を充実するため、大企業等を含む各分野の企業との人脈づくりや情報交換等連携を深め、一層幅広い人的ネットワークの構築を目指すとともに、企業人としてのマインドをさらに醸成することも期待する」と。企業人としてのマインドを醸成していただきたいという期待を込めている。</p> <p>○それから、これは期待を込めてこういう文言も書かせていただいた。「円高や欧州の経済不安などグローバルな経済環境の変化は、ものづくりを得意としてきた日本の中小企業に大</p>	
--	--	--

	<p>きなダメージを与えている現実を踏まえ、鳥取県の中小企業を守り育成するためには、企業側の意識改革を誘導する強力な技術支援力があり、かつ、先進的・画期的な提案のできる産業技術センターへと成長することを期待する」ということで、高い目標に向かってより努力していただきたいという期待を込めて、この文言を入れさせていただいた。</p>	
--	--	--

2. 財務諸表の承認に係る意見聴取について

①審議結果

資料2に基づき事務局より説明し、議長が委員に諮り、異議なく出席委員一致で、原案のとおり決定。

②主な意見

特になし

3. 中期計画に定める使途に充てられる剰余金の額の承認に係る意見聴取について

①審議結果

資料3に基づき事務局より説明し、議長が委員に諮り、異議なく出席委員一致で、原案のとおり決定。

②主な意見

特になし

4. 役員給与規定の変更に対する意見聴取について

①審議結果

資料4に基づき事務局より説明し、議長が委員に諮り、異議なく出席委員一致で、原案のとおり決定。

②主な意見

特になし

第21回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会 出席者名簿

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名
委員長	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長顧問
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長
委員	辻 智子	日本水産株式会社	生活機能科学研究所長
委員	房安 寿美枝	いなば和紙協業組合	総務部部長

【地方独立行政法人】

氏名	役職名
山本 誠	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部長
山田 強	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部企画室長
蔵内 康雄	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部総務室長補佐
光田 昇	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画室長補佐兼電子有機素材研究所所長補佐
木村 伸一	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター電子有機素材研究所所長補佐兼企画室長補佐

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名
明里 利彦	商工労働部産業振興総室長
山下 喜夫	商工労働部産業振興総室産学金官連携室長
富山 哲明	商工労働部産業振興総室産学金官連携室係長